

## AI を知り、己を知れば未来危うからず

香川県立高松高等学校 1 年 松浦 瑠

### はじめに

2022 年にオープン AI 社によって公開された ChatGPT は世界中で脚光を浴び、Bing や GoatChat、AI Chat など生成 AI の開発も急速に進展している。一方で、文部科学省が生成 AI の利用に関するガイドラインを発表したり、多くの学校が誤った利用をしないように注意喚起を行ったりしている。学校での課題に不正利用することは当然禁止するべきであり、利用に関して様々なトラブルも避けなければならない。しかしあと数年後には社会に出る僕たち高校生にとって何よりも重要なことは、今現時点での利用方法やガイドラインではない。数年先の AI との付き合い方の方がはるかに大事なのではないだろうか。AI の発達によって、数年後には存在しなくなる職業もあるというのだ。自らの将来設計をする上で、未来を見据えて AI はどこまで進化し、何が AI に取って代わり、社会の中で人間の手や頭脳が必要なくなるのか、AI と共存するために僕たちに今必要なことは何かを正しく把握して将来の AI との付き合い方を考えていくことが、今後社会を背負う高校生にとってはより大切であると考えている。

### 生成 AI について

従来の AI は、文字認識や画像認識など「大量のデータを学習することで正しい答えを学び、与えられたデータと比較して基準がクリアされているかを判断する」ものであった。これに対して生成 AI とは、「AI を用いて文章や画像、動画、楽曲、プログラムのコードなどを生成する技術」である。従来の AI とは異なり、大量のデータを学習して新しいコンテンツを生み出すのである。

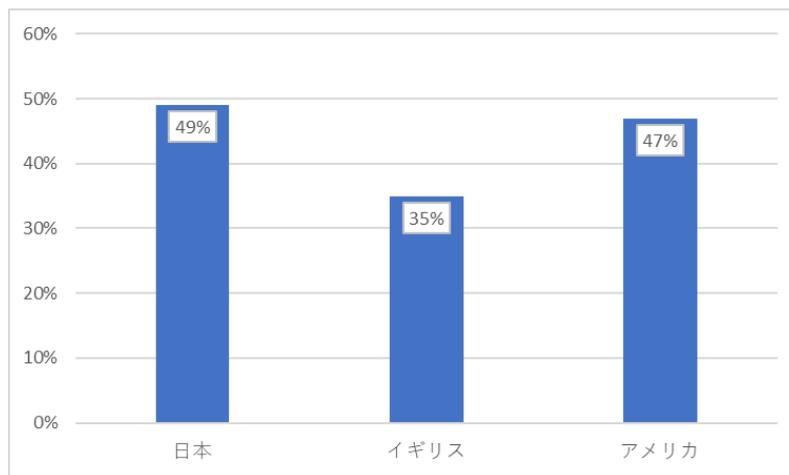
### AI によって失われる職

生成 AI を含む AI の発達によって、今まで人間が行ってきた作業が機械化されているものが既に存在している。身近なところでは店舗の掃除ロボットや接客、顔や指紋認証などによるセキュリティー設備などが目に付くようになってきた。さらには国会答弁の作成にも生成 AI を活用しようが進められている。これらは業務を効率化する一方で、人間から職を奪うということにもつながるのである。2023 年 7 月 24 日の四国新聞によると、特殊詐欺防止のために AI による不正口座検知システムが開発されたという。このシステムは銀行員よりも最大で 2 か月も早く不正口座を 95% 正確に発見することができる。銀行員の負担は大きく減り、さらには人員削減によって人件費削減にもつながるかもしれない。

問題なのはこの人員削減の部分である。将来さらに様々な分野でAIが導入されて人間の職が失われていくと考えられる。2015年に野村総合研究所が分析した結果によると、「今後10年から20年間に日本の労働人口の約49%が就業している職業がAIやロボットに代替される可能性が高い」という。

【今後10～20年でAIやロボットに代替される職業の割合】

(出典元：野村総合研究所)



つまり今高校生である僕たちが大学や大学院を卒業して社会に出る頃には、今の半分程度の職業しか残っていないということになる。当然目指していた職業が数年後には存在しなくなるということもある。

【自動化の可能性が高い職業】

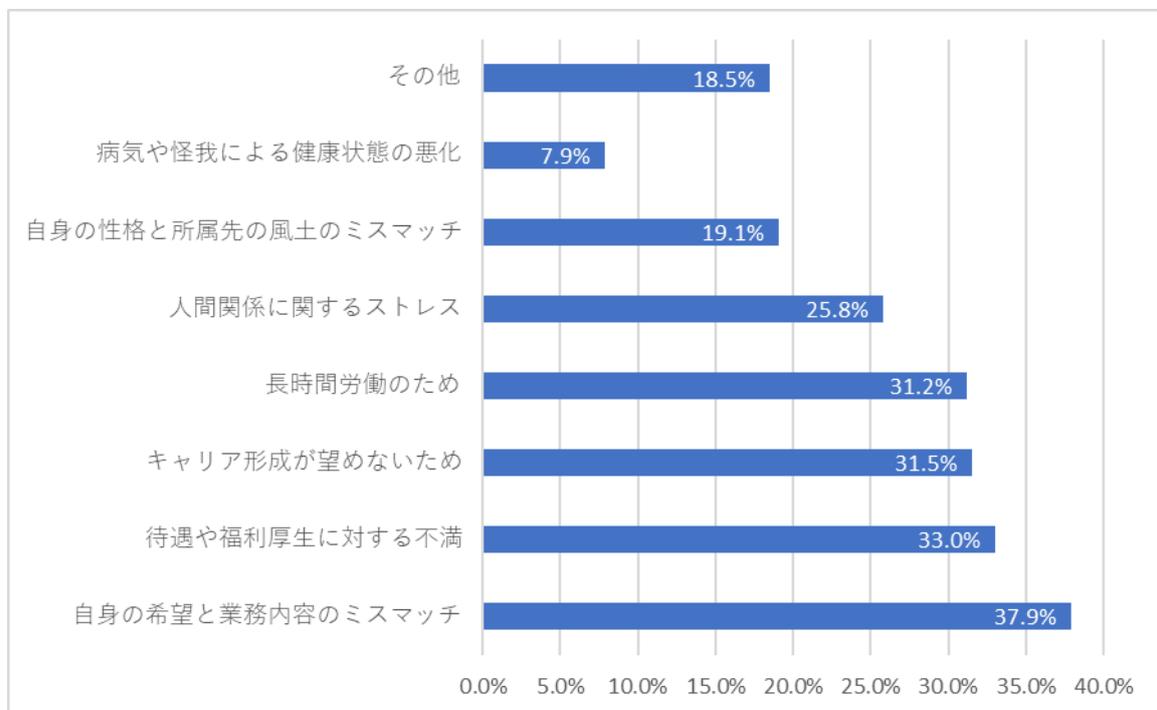
職業	自動化の確率
電車運転士	99.8%
経理事務員	99.8%
検針員	99.7%
一般事務員	99.7%
包装作業員	99.7%
路線バス運転者	99.7%
積卸作業員	99.7%
こん包工	99.7%
レジ係	99.7%
製本作業員	99.7%

(参照：野村総合研究所「日本におけるコンピュータ化と仕事の未来」P. 11)

上記の職業については、確率から見ても自動化がほぼ確定していると言えるし、既に自動化されているものもある。他には医療事務や学校事務、行政事務などの事務員、測量士や通関士、オペレーターもAI・ロボットに代替される可能性が高いとされている。

また、職業自体は存続していても、業務内容が大きく変わってしまう可能性もある。先述の銀行員の例で言えば、不正口座を見つけ出すという業務は人間の手から離れてしまい、その業務を担当していた人はAIに代替されていない別の業務に携わることになるかもしれない。近年新卒として就職した社会人の約3割が3年以内に辞めているという。その理由の1位が「自身の希望と業務内容のミスマッチ」である。

【新卒社会人が3年以内に退職した理由】



\*退職理由が複数ある場合もある

(出典元：THE ADECCO GROUP「新卒入社3年以内離職の理由に関する調査」)

進路を考える際には、自分のやりたいことと会社の業務内容が乖離していないか、イメージだけで会社を選んでいないか、しっかり調べて検討する必要がある。

### AIよりも人間の方が優れていること

出光興産が運営するテクノロジーメディア「iX+ (イクタス)」のコラムの中で、次の3点がAIよりも人間の方が優れていると書かれている。

- ・未知のことに対する連想力・想像力
- ・データが不十分な状態における決断力
- ・感情に基づくコミュニケーション

これらの能力が求められる職業については、今後もなくなることはないと考えられる。例えば、医師やデザイナー、カウンセラーや教師など身近に存在する職業である。このような職業でもある程度 AI の介入はあると考えられるが、大事な局面では上記の3つの能力が大事になってくるため、やはり人間の方が優位だとされているようだ。

#### 【自動化の可能性が低い職業】

職業	自動化の確率
精神科医	0.1%
国際協力専門家	0.1%
作業療法士	0.1%
言語聴覚士	0.1%
産業カウンセラー	0.2%
外科医	0.2%
はり師・きゅう師	0.2%
盲・ろう・養護学校教員	0.2%
メイクアップアーティスト	0.2%
小児科医	0.2%

(参照：野村総合研究所「日本におけるコンピュータ化と仕事の未来」P. 11)

自動化される確率の低い職業を見ると、人と人との関わりが大切であったり、相手の気持ちを推し量る能力が必要だったりするものだとわかる。他にも保育士やディレクター、経営コンサルタント、福祉施設職員、デザイナーなども確率は低いとされている。このような職業は今後いくら AI が発達しても到底人間には及ばないのである。

#### 高校生として今考えておくこと

AI によって職が失われることは悪い面ばかりではない。厚生労働省が発表したように、少子化で労働力が減少している日本において働く世代の心身の負担を軽減できるし、労働力不足の解消にもつながる。

今後進路選択をする上で大事なことは、AI と共存するために自分は何をしたいのか、何ができるのかを考えることだ。前述した数字はあくまでも予測であり決定事項ではない。自

分が目指す職業はAIと共存できるのか、そのために必要なスキルは何なのか、そのスキルを身に着けるためにはどのような学部学科に進学すべきなのか、将来性のある道を選ぶためにはAIをどこまで理解しておく必要があるのか、など進路を決めるために考えなくてはいけないことはたくさんある。ただ「今これがやりたい」ではなく、その先にどんな道があるのか、どんな未来があるのかを想像する必要もあるし、人間にはAIにはない優れた想像力がある。そして決断力もコミュニケーション能力も人間に備わった武器である。

高校生時代にこの3つの力を伸ばすためにできることはないか、どうすればいいかを考えてみた。

### 想像力

- ・友達との関わりで相手の立場になって考える
- ・自分と違う意見を持つ友達や先生とも関わる
- ・たくさんの本を読む
- ・自分の将来を色々な条件下で考えてみる

### 決断力

- ・生活の中で常に優先順位を決める
- ・常に自分の考えを持ち、ぶれないようにする
- ・判断材料を増やすために多くの情報を集める
- ・失敗を恐れない度胸をつける

### コミュニケーション能力

- ・友達や先生の話をしっかり聞く
- ・挨拶を大事にする
- ・自分の気持ちや意見を正しく伝える力をつける

どれもAIの技術とはかけ離れたもので、今日からでも日常生活の中でほんの少し意識するだけでできることである。長かったコロナ禍から脱却し、ようやく人と人との関わりが以前のように戻りつつある。4月から高校生となって新しい友人や親身になってくれる先生にも出会った。彼らとの関わりを通して3つの力を十分に伸ばしていきたい。

「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」孫子の兵法に出てくるこの一節のように、今気軽に使うことのできる生成AIをいろんな使い方をして試してみることも良いのかもしれない。情報漏洩や肖像権の問題など危険な面ばかりクローズアップされているが、正しく使ってまずは「AIを知る」ということも必要だと考える。そして「己を知る」ことで足りていないものを補いつつ未来を切り開いていきたい。

## おわりに

近年の AI の発達は凄まじい勢いを見せている。AI を開発したのも活用するのも人間であり、結果として多くの職が失われたとしても AI 自体を脅威と捉えることは間違っている。人間では限界のある業務も AI を用いれば容易に行うことのできるものもたくさんある。逆に AI にはない想像力・決断力・コミュニケーション能力を今から養っていけば、AI に負けることなく活躍できる分野も多く存在している。AI の未来が明るいと同様に僕たち高校生の未来も明るいと感じて、有意義な高校生活を送りたい。

## 参考文献

- ・内閣府－AI 等の新たなテクノロジーが雇用に与える影響について  
([www8.cao.go.jp/cstp/at/ai\\_team/6kai/shiryokoyou.pdf](http://www8.cao.go.jp/cstp/at/ai_team/6kai/shiryokoyou.pdf))
- ・RIETI－AI が日本の雇用に与える影響の将来予測と政策提言  
(<https://www.rieti.go.jp/jp/publications/pdp/20p009.pdf>)
- ・テックキャンプ－10年後 AI によってなくなる仕事 12 選・なくなる仕事 7 選を紹介  
(<https://tech-camp.in/note/technology/82291/>)
- ・iX+－【2023 年最新版】AI を導入してもなくなる 8 つの職業とは？  
(<https://www.ix-plus.com/column-005/>)
- ・野村総合研究所－日本におけるコンピュータ化と仕事の未来  
(<https://www.nri.com/-/media/Corporate/jp/Files/PDF/>)
- ・Alsmily－生成 AI（ジェネレーティブ AI）とは？種類・使い方・できることをわかりやすく解説  
([https://aismiley.co.jp/ai\\_news/what-is-generative-ai/](https://aismiley.co.jp/ai_news/what-is-generative-ai/))
- ・生成系 AI が出来ること・出来ないこと  
(<https://www.authense.jp/innovators/2801/>)
- ・THE ADECCO GROUP－新卒入社 3 年以内離職の理由に関する調査  
(<https://www.adeccogroup.jp/power-of-work/061>)